

つながる すみだ人

私の好きな すみだ

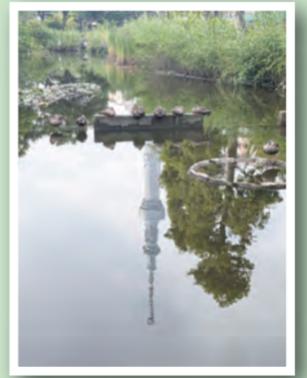
今月の1枚

「逆さカモ?」

【撮影】矢部雅人さん

本コーナーへの写真を随時募集しています。詳細は今号3面をご覧ください。

【問合せ】広報広聴担当 ☎5608-6223



高澤瀬理奈さん(東駒形在住・在勤)

すみだを愛し、すみだで活躍する人をリレー形式で紹介する「つながる すみだ人」。お話を伺った方に次の方を紹介していただき、すみだを愛する人をつないでいきます。第62回は、「割烹 峰屋」(東駒形3-19-13)の女将として、能登半島地震の被災地支援等を行い、「食」を通して人と人をつなぐ高澤瀬理奈さんです。

Q. すみだでどのような活動をしていますか？

板前である夫が作る季節料理と、刺酒師の資格を持つ私が選んだ日本酒でもてなす割烹を営んでいます。3月には、参加費の一部を寄付するチャリティーパーティーを開催しました。夫が作る料理をビュッフェ形式で振る舞うだけでなく、当店で金継ぎ教室を行う元輪島塗職人の講師等が協力してくれ、輪島塗や金継ぎ作品の展示や、金沢の伝統工芸である「水引」のワーク

ショップも行いました。チャリティーに興味を持ってくれた近所の方を含め、約70人が参加してくれました。

また、保育園児の前で魚を捌き、調理したものを食べてもらう食育も行っています。この活動で魚嫌いを克服した子どもがいて、普段の仕事では感じられない喜びや、心の栄養につながっています。

Q. 現在の活動を始めたきっかけは何ですか？

チャリティーパーティーは、20年来の付き合いがある富山市の富美菊酒蔵が、震災の影響で物資不足等に困っていると聞き、開催しました。でも、その根底には、コロナ禍で店の休業を余儀なくされ、区の支援を受けて存続させた私自身の経験が影響していると思っています。困り果てたときに受けた支援の有り難さを痛感したので、誰かの役に立てる機会をずっと探していました。

飲食店は、人と人がつながる場でありたいと強く思っています。パーティーでも、普段なら出会

うことのない金継ぎの講師と店のお客さんが、この催しがきっかけでつながっていく様子を見掛けました。それがとても嬉しく、原動力になっています。

「食」で人をつなげられるし、驚きや感動を与えられる。まさに「食」の可能性は無限大です。今後のチャリティーイベントに協力してくれる飲食店等が増えたら嬉しいです。また、店から飛び出して「食」で関われる機会があれば、ぜひ声を掛けてほしいです。



食育活動の様子。この活動は板前の仕事を知ってもらう機会でもあります。子どもたちが板前に憧れて、将来板前になってくれたら嬉しいですね。

▶昨年、「こども料理教室」を店で開き、子どもたちはイワシのハンバーグを作りました。大人も含めた全員に、イワシを手で3枚に下ろす「手開き」も体験してもらいました。「食」で笑顔が見られると、こちらもついつい頬が緩みますね。



Q. 高澤さんは、すみだのどんなところが好きですか？

買物するにもどこへ行くにも、とても便利ですよ。また、夜間は街灯がともって明るいし、人通りもあるので、かつて他区に住んでいたときのような恐怖感はなく、安心して生活できています。

大学では近現代の歴史を専攻していたほど歴史が好きなのですが、すみだは近現代の歴史を感じられるのも素敵です。出身地である鳥取県

に住んでいた頃は、生活の中で戦争の歴史を感じる事が少なかったんです。一方ですみだは、東京大空襲や関東大震災で大勢の方が亡くなったという悲しい歴史もあるけれど、その度に立ち直っているし、どう立ち直るかを常に考えているように思います。これから先、何かあっても「また、進んでいくぞ」と感じられるところが好きですね。

次回登場してくださるのは・・・

高澤さんが食育活動を行う「小梅保育園」で、副園長を務める基加津美さんです。
【問合せ】広報広聴担当 ☎5608-6223



夢

雨水ネットワーク全国大会「雨を活かして未来へつなごう」を開催！

墨田区長

山本 亨

8月3・4日、すみだリバーサイドホールで「第14回雨水ネットワーク全国大会2024 in すみだ」を開催しました。

本大会は平成20年に本区で初めて開催され、今回で14回目を迎えます。また、今年は平成6年に日本で初めて雨水活用をテーマにした国際会議「雨水利用東京国際会議」が開催されてから30周年の節目に当たり、私自身も今回の開催を心待ちにしていました。

今大会のテーマは「雨を活かして未来へつなごう」です。本区では雨水を資源として捉え、「流せば洪水、ためれば資源」をキャッチフレーズに、約40年前から雨水の活用を進めてきました。現在では、区内の約800か所に雨水活

用施設を持ち、約2万7000tの雨水を貯留できます。

また、普段から多くの区民の皆さんが、打ち水や植木の水やり等で、雨水を生活の中に取り入れています。8月7日、両国駅広小路で開催された打ち水イベントでも、両国協会や石横処、JR両国駅や東京東信用金庫、墨田区観光協会など、多くの関係者や区民の皆さんが参加され、雨水活用を通して、改めて環境について考える良いきっかけとなりました。

すみだで始まった雨水活用は、今まさに、地球を救う人間の知恵として、より一層その重要性を増しています。先人達が築き上げて

きた思いや積み重ねてきた経験を、今大会や様々な取組を通して、着実に未来につなげていきます。



「両国駅広小路 打ち水イベント」にて

